

自分の言葉で語れない。国民の生命権、生存権、教育権、労働権、財産権を保障する政治を実現させることが急務である。

一〇 いま改めて、歴史の苦闘の中で人類が到達した生存権を保障し実現する社会国家を、このコロナ禍において実現していくことの大切さを実感する。私たちが聖書を読んでキリスト者として行動を起すとするれば、コロナ禍で苦し

んでいる「底辺(周辺・隅っこ)にいる人々との尊敬をこめた連帯」ではないか(本田哲郎神父の言葉)。

自己紹介

所沢みくに教会 加藤 久幸

今春、委員を引き受けることに

なりました加藤久幸と申します。早速「自己紹介」の執筆依頼を受けたので、過去の例を参考にしようと思いいただいた「埼玉の夜明け」復刻版をばらばらとめくって見たものの、例がありません。省みると、私の今までの歩みの中で、社会委員という奉仕は西東京教区で一期したかどうかくらいであったかと思えます。埼玉地区も初めて、社会委員も初めてとい

主張

新型コロナウイルス禍で考える「トリクルダウン理論」

「二〇〇年に一度」級の「疫病(新型コロナウイルス感染症)・六月二三日現在・感染者数九十一万九〇〇人、死亡者四七万二二二六六人」のなか、この「疫病」はこれからの世界の在り方を一変させるものといわれている。そこで経済への懸念の裏返しともいえる、前例のない規模の第二次補正予算案予備費を計上したアベノミクスの現行政策より、「トリクルダウン理論」について考えてみた。本年は、一〇〇年に一度の世界的金融危機と呼ばれたリーマン・ショック(二〇〇八年九月)から一二年、日銀がマイナス金利政策を導入してから四年が経過した年である。イデオロギー政権「安倍政権」は、経済を示す表面的な数字は回復させたが、日米欧の中央銀行による金融緩和で大量のお金が世界に供給され、ひずみが生じている。国内においては金融機関の赤字化傾向とは逆に、企業利益は高水準にあった。こうした点についてどう考えればいいのか。従来、企業利益は三つのルートで世の中に還元され、資金循環をもたらした。第一は、企業の設備投資によるもので、バランスシート上に資産を計上、第二は、賃金など損益計算書上の経費によるもので世の中へトリクルダウン、第三は、金融機関などへの利払いで、預金者等への還元を指す。しかし、今日では以上の三ルート

すべてが滞り、その結果、企業には空前の規模のキャッシュが滞留する状況にある。マイナス金利も含む超低金利政策で企業の利払いは極端に減り、一九九〇年代初めの六分の一程度の水準になっている。この未曾有の企業収益水準をもたらした要因の大半は、利払い負担の減少によるものだった。以上、三つのルートすべてのトリクルダウンが縮小し、企業だけが利益をため込む状況になり、一方で、企業の支払う配当は大幅に拡大し、今日の水準は九〇年代初めの五倍を超えるといわれている。最近、思いもよらぬ「疫病」に世界が襲われ、一転して「景気は極めて厳しい状況」に陥っている。「トリクルダウン」とは、「富める者が富めば、貧しい者にも自然に富が滴り落ちる(トリクルダウンする)」と言われるトリクルダウン理論(「したたり効果」trickle-down effect)を指す。「大企業や富裕層の支援政策を行うことが経済活動を活性化させることになり、富が低所得層に向かって徐々に流れ落ち、国民全体の利益となる」とする仮説をいう。換言すると、「貧民」がおこぼれを頂戴する理論である。私は、この九九%の国民をスズメと見做した下方蔑視の理論にネガティブだった。そして現在、新型コロナウイルスがもたらした危機の傷跡は深く、「戦後最悪」ともいわれる景気後退の出口が見えないなか、景気回復後も深刻な「低溫経済」が続く予感がする。

う感じですので、心許ないことではありますが、できる範囲で努めたいと思えます。そこで、自己紹介に替えて、社会委員会への思いを記すことにいたします。

埼玉地区の社会委員会が何をしてきたのか。「埼玉の夜明け」復刻版には、過去十年分の、委員長による活動基本方針の他、活動の記録等が収められています。主な活動である、平和を求める八・一五集会、環境問題講演会、信教の自由と平和を求める二・一一集会などが、丁寧に報告されています。実に、多様な課題に取り組んでいる様子が窺えます。それは、そのはずで、この委員会が、人と被造物の問題に関わり、それらの関わり(社会・世界)の現実を、取り扱うからだろうと思えます。しかしながら、今年度は、コロナ禍の影響を受け、私たちの社会・世界は、「変容」を求められています。別に報告があると思いますが、社会委員会も今まで通りの活動というわけにはいかないようであります。

先日、WHOが「ソーシャルディスタンス」という表現を「フィジカルディスタンス」という表現に改めたという報道を見ました。それからかなり時間が経っても、日本の社会では「ソーシャルディスタンス」の大流行・大合唱のみが続いています。

たかが、言葉の問題と思われるかもしれませんが、「ソーシャルディスタンス」という言葉やそれに基づく政策によって、新たな不

利益やさらなる不都合が起きてはいないか。これら現実の「見張り」「見守り」の役割が社会委員会の働きでもあると思えます。そのみならず、今日の状況において、「社会」「交わり」をどう受けとめ丁寧発信するかは「社会」委員会・教会に関わる者の根幹・死活的課題でもあるようにも想えます。できることは小さいかもしれませんが、今できることに誠実に向き合いたいと考えています。よろしくお願いいたします。

二〇二〇年度社会委員会方針

社会委員会委員長 本間 一秀

今年度も前年度に引き続き再び社会委員会の責務を担うことになりました。引き続きご指導、ご協力よろしく申し上げます。

コロナウイルス感染は未だに収束されません。コロナウイルスの洪水の中、私達は「自粛の箱舟」の中で数か月、彷徨って来ました。私達信託者にとって最も大切な主日礼拝さえも一堂に会して守れない状況が続いています。

コロナウイルスは全世界に蔓延し人々は恐怖の中にあります。そうした中で、大国の政治指導者達の発言を聞いてみると、「情けない」の一言に尽きます。「神への畏れを覚え、油断、慢心、自己中心の自惚れ」こんな表現しか出て来ません。権力、勢力争いをしていない場合ではないと思えます。

我々にとって最大の敵はウイルスではなく、各自の心の中にあると思います。今こそ科学的な指導者、専門家の声を真摯に聴き、真の神の御声を聞き、行う時であります。

今、世界がウイルス感染に呻吟している時、辺野古の海の埋め立工事は続いています。軟弱地盤の海に対する知恵も知識も見つからないままに、創造の神への畏れも無く続けられています。しかも血税が浪費されているのです。窮乏する医療現場に心血を注ぐべきではないでしょうか。日本基督教団沖縄教区議長平良修牧師は「私達沖縄の者は人殺しのお手伝いをさせられている。」と怒りを露わにされています。とおり、沖縄はベトナム戦争、湾岸戦争等の為に米軍基地の負担を強いられて来ています。まずこの時、埋め立て工事を中止すべきでしょう。しかも、嘉手納基地をはじめ米軍基地付近の水質汚染は進む一方です。入間基地には米軍基地から汚泥が運び込まれているとのこと。神様から与えられた「美しい大地」、宣教の地が汚されているのです。私達は無関心であってはならないと思います。

また部落差別やヘイトスピーチ問題、性差別問題は胸が痛くなる思いです。こうした事柄に対し、どのように考え、行動に移すべきなのか、真の平和を祈り求める「キリスト者である」私たちひとりひとりが大きく問われているのです。様々な力により社会の中であらゆるところで、権力に押しつぶされ、差別され苦しむ方々が何

と多いことでしょうか！

今年度は恒例の八・一五集会は中止します。環境問題講演会は中止せざるを得ない状況です。私達社会委員会は今期はこの「埼玉の夜明け」を通しての発信に重点をおきたいと思えます。

また、社会活動委員会の在り方についても検討を続けて参ります。私達は心から主を賛美し、み言葉に聞き続け、主の福音を語り続けて行きます。御栄を現して参りましょう。「小さき者、重荷を負う者」の為に生きるのが信仰者、教会ではないでしょうか。主イエスの歩みに従って、私達社会委員会は地の塩、世の光としての教会を社会を守るべく、今期も見張りの役を果たして参ります。諸教会の皆様のお祈りとご理解ご協力をお願いします。



わたしたちと朝鮮・韓国との出会い(2)

草加教会 佐竹 貞昭・昱子

四 韓国について学んだこと

② 天皇制日本による

朝鮮半島の植民地支配 それは一九〇一年から一九四五年までの三六年間だと認識してました。しかしわかったことは明治維新まで遡るといことです。一五〇年前から日本はアジアの近

隣諸国を一段下に見て、ヨーロッパに追いつこうという価値観で植民地支配の計画を進めてきています。脱亜入欧論によります。

植民地支配が成功するや、その人脈が現存し中曾根康弘・岸信介・安倍総理へとつながってきました。わが国が戦後処理を徹底して行わなかったため、「日本の侵略と差別の歴史の連続性」が今日に及び、現在も苦しみが続いている人々がいることを忘れてはなりません。ですから、現在の問題を考える時、どうしても歴史と向き合わなければならぬのです。

③ 植民地支配により何を奪ったか まず最初に土地取上げでした。財産・母国語の禁止・日本語教育・創氏改名を強制・神社参拝・宮城遥拝、逆らえば生命さえ奪われたのです。韓国は儒教の国と言われますが、キリスト教徒の多い国です。神社参拝・宮城遥拝を拒否した人も多く、沢山の信徒が拷問され殺されました。日本の仏教会とキリスト教会は一部の教派を除き弾圧に屈し、戦争に協力した苦い歴史があります。

一九一九年の独立運動のさ中で、教会と部落全体を焼き討ちにした堤岩里虐殺事件という有名な事件があります。新渡戸稲造は暴徒の先導者が隠れていたためと軍部を擁護。大方の日本人の理解も同じだったが、安中教会の柏木義円牧師は総督府を批判し、正しい認識を示した数少ないキリスト者です。四八年後の一九六七年に村

岡花子・三浦綾子・関田寛雄牧師たち六〇〇人が「韓国堤岩里教会焼打ち事件謝罪委員会」を設置し、謝罪をしています。その後も関田寛雄牧師を中心に八回、韓国の教会を訪れ謝罪しました。昨年七月には、初めて北朝鮮の教会を訪れ謝罪しました。

④ 関東大震災での

官民一体による虐殺

「朝鮮人が井戸に毒を入れた」という流言飛語により、数千人の朝鮮人と中国人数百名、そして左翼系の日本人が殺されました。毎年東京亀戸で慰霊祭が行われていますが、小池百合子東京都知事は一度もメッセージを寄せていません。横浜でも虐殺があり、富士国際旅行社が企画したフィールドワークに参加しましたが、地元で歴史を掘り起こし説明してくださった方たちがいました。

法政大学教授榎蒼宇氏の「朝鮮人虐殺は偶然でも天災でもない。植民地支配を通じて、官民一体の迫害経験・正当化論の蓄積で起きたものだ。植民地支配の過酷さ、正義を問うには、された側から見なければいけない。その前提には常に植民地支配の不法性がなければならぬ。」という指摘は重く思えます。

⑤ 徴用工は日本全土で

働かせられていた

中国人強制連行については知られていましたが、朝鮮半島からの徴用工はあまり知られていませんでした。しかし研究が進み、わ

かっているだけでも次のような県があります。樺太・北海道・秋田(花岡鉱山)・岩手・群馬・新潟(長野(松代大本営)・山梨・神奈川・広島・高知・福岡(炭鉱)・長崎(軍艦島)・鹿児島・沖縄。いずれもダム工事や軍事工場での過酷労働で、タコ部屋に雑魚寝で食事も粗末でした。賃金は天引きされ、終戦時はいくらも貰えず命からがら帰国しています。各地に慰霊碑があります。

政府は証拠を焼却したりしましたが、それでも行政当局が作成した文書や企業の労務管理関係資料、被害者の証言で明らかになっています。山梨県の在日三世の研究者は数学教師ですが、地方紙の小さい記事を二〇年間収集・分析して徴用工の存在を証明しました。北海道の幌加内町でダム建設に動員され、犠牲になった朝鮮人労働者の遺骨を掘り起こす活動をしてこられた一乗寺住職の殿平善彦さん一行は韓国の遺族に遺骨を返しに行きましたが、喜んでもらえるどころか、「日本の謝罪は、補償はどうなっているのか？」と詰問されたそうです。「よく七〇年以上も経っているのにいつまで謝らなければならぬのか」と言いますが、韓国の被害者からすれば、「いつまで告発し続けなければならぬのか」ということで真剣に考えるべきです。」と殿平住職は話しています。

今も全国に埋まっているであろう「負の遺産」を、文字通り足下から掘り起こすべきだと思います。

あったことを無かったことには
できません。補償・犠牲者の遺骨
返還を日本政府の責任で行うべき
です。過去に行われてきたように
企業は補償して早くケリをつけた
いのではないかと私は思っていま
す。

徴用工の問題は、研修に名を借
りた現在の外国人労働者が置かれ
ている状況へと続いています。NHK
の「クローズアップ現代」
で、過酷な働かされ方をしている
外国人労働者に寄り添う日本人が
紹介されていました。

過去を解決しない姿勢が今へと
続いています。

⑥ 植民地支配下での徴兵

日本人として徴兵され、戦後は
戦犯として処刑・投獄された人々
がいます。刑は日本人同様受けた
にもかかわらず、補償からは排除
されています。まさに使い捨てで
あり、悔しや悲しさは今に続いて
いるのです。李鶴来氏は「韓国人
BC級戦犯の訴え」として本で伝
えています。

一貫して徴用された人々をカメ
ラにおさめてきた記録作家林えい
だい氏は、福岡で神主をしていた
父親が炭鉱から逃れてきた朝鮮人
をかくまったため拷問されました。
非国民の子として育ったえい
だい氏は、虐げられた人たちの味
方であり続ける人生を歩まれたの
です。

⑦ 満洲への集団移民

日本人の満洲からの引き上げに
ついては様々な形で伝えられてき

ました。国策により日本国民がど
れほどひどい目にあったか。映
画、大小の地域での伝える会など
を通して戦争の悲惨さを学び、
「憲法九条をまもる運動」へと結
実しています。しかし、戦争末期
、「満洲」には一五五万人の日
本人を上回る二二六万人の朝鮮人
たちがいたことはあまり知られて
いません。しかもそれは日本の植
民地支配・勢力の拡張によるもの
だったのです。

李光平氏は祖父母が植民地時代
の一九三九年に、朝鮮北部から
「満洲」間島省の龍井（現在の吉林
省延辺朝鮮族自治州龍井市）に移
住した移民です。その歴史を二〇
年かけて調査・研究した写真展を
見て初めて知りました。二〇一八
年現在もそこに中国朝鮮族として
七三万人が暮らしています。ユダ
ヤ民族に次ぐ離散難民（ディアスポ
ラ）だと、ここ草加で講演した
ことのある徐京植氏は述べていま
す。彼は韓国の軍事独裁下で虐待
された徐勝・徐俊植兄弟の弟です。

⑧ 天皇制日本軍に「慰安婦」にさ
れた人々の尊厳と名誉の回復
この問題は加害の中で日本人が
一番心を傾けて関わってきたので
はないでしょうか。私が述べるま
でもありません。歴史を否定する
人々は、一つの証言をもって全て
の歴史的事実を否定しています。
桜井よし子たちは自分たちが正し
いという確信があるなら、被害者
に会い直接「あたしたちは嘘を
言っているのでしょうか。」と話し
てみるべきだと思います。

「歴史の記録をねじまげること
は、日本の退廃である。他者の苦
痛に対する尊重は、すべての人間
に対する尊重の土台だ。戦争に反
対するだけではなく、侵略支配に
抵抗することが大切だ。」と詩人佐
川亜紀は訴えています。重い言葉
ではないでしょうか。相手を敵に
することで自分の立場の安定を
図っている安倍政権を恥じて、政
治を変えなければなりません。

⑨ 在日韓国・朝鮮人の
被爆者の痛み

広島・長崎で被爆した人たちの
中に、韓国・朝鮮人がいたことは
あまり知られていません。私もあ
まり知りませんでした。実に全爆
死者の六人に一人が韓国・朝鮮人
だったと言われています。二〇一
六年、高麗博物館で被爆した朝鮮
人を放置してきた戦後日本を振り
返り、核のない平和な世界を願
い企画された展示を見ました。
傷ついた体で祖国に帰った彼ら
が受けた更なる傷は、「原爆が落
とされたから戦争が終わった。」
という言葉でした。広島も長崎も
日本のアジア侵略の拡大とともに
有数の軍事都市として栄え、植民
地統治下で生活基盤を奪われた朝
鮮人や強制連行された人々が大量
移り住んだ街です。被爆時は日本
人であったはずの彼らは被爆手帳
を与えられなかったのです。韓
国・朝鮮人被爆者にとって「世界
で唯一の被爆国民」という主張は受
け入れがたい。」という認識を初
めて知り、衝撃を受けました。

社会委員会報告

◎ 第一回社会委員会
二〇二〇年六月二一日(日)
午後三時～四時五〇分 川口教
会 集会室 出席者 八名

【報告事項】

なし

【協議事項】

第1号議案 社会委員就任の件
本件につき、本間委員長より
説明があり、所沢みくに教会加
藤久幸牧師の社会委員就任が協
議され、直ちに加藤久幸氏は就
任を承諾した。
第2号議案 社会活動委員・社会
委員派遣依頼の件
本件につき、社会活動委員派
遣依頼につき議論がなされ、下
記のとおり、協議された。
発送担当・稲委員
期 日・七月末
費用・すべて社会委員会費用
第3号議案 二〇二〇年度委員会
組織の件
本件につき、下記のとおり、協
議された。
委員長・*本間一秀(川口)
書記・井川 明(協力委員・
川口)

会 計・佐竹昱子(草加)
埼玉の夜明け編集担当・稲、井
川
委員・阿部孝司(上尾合同)、
沼田祐子(埼玉大通り)、稲正樹
(所沢みくに)、*加藤久幸(所
沢みくに)、地区委員・*大坪
直史(熊谷)(*印 教職)

主要な活動の柱・平和と天皇
制問題・部落差別問題と人権

問題・環境問題
第4号議案 委員会日程の件

本件につき、種々の議論がな
され、下記のとおり、協議され
た。
(1) 八・一五集会中止
(2) 環境問題講演会中止
(3) 次回委員会は、九月以降、
本間委員長から、委員に諮
り連絡する。

なお、各委員より、「コロナ禍」
の中、自粛せざるを得ないが、社
会委員会もスタイルを変えて活
動することも必要との発言があ
り、時代に応じた各種活動の展
開を、今後考えることも大きな
課題となった。

また、地区通信「埼玉の夜明
け」を通し、ペンで訴えていくこ
とも協議された。
第5号議案 「埼玉の夜明け」本年
第一号発行の件
本件につき、稲委員より編集
内容・構成についての説明があ
り、協議の結果、6月末までに、
原稿を提出することとなった。

編集後記

本号は、稲正樹「憲法からみた
日本の新型コロナウイルス対策」、
加藤久幸「自己紹介」、主張「新型
コロナウイルス禍で考える『トリ
クルダウン理論』」、本間一秀「二
〇二〇年度社会委員会方針」、佐竹
貞昭・昱子「わたしたちと朝鮮・
韓国との出会い(2)」、社会委員報
告から構成されています。COVID-
19はまだまだ感染が続きます。く
れぐれもお気を付けてください。教
会が祈りと行動のセンターとなる
ことを願っています。(稲)